

高松中央高生 リクシル訪問 SDGs 取り組み学ぶ



瀬戸社長とリモートで対談する生徒—高松市今里町、LIXILショールーム高松

社長とリモート対談

国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」への理解を深めようと、高松中央高校（香川泰造校長）の生徒が23日、目標達成につながる取り組みを進める高松市今里町の住宅設備メーカーLIXIL（リクシル）のショールームを訪問。同社の瀬戸欣哉社長とのリモート対談などを通して、

地球環境の保全などについて関心を高めた。企業訪問は、生徒の視野を広げるために同校が高松青年会議所と連携して企画。2年生の希望者が7月から県内企業を順次訪れており、3回目のこの日は11人が参加した。この日は、途上国向けに開発した簡易式トイレにつ

いて、瀬戸社長がリモート対談で紹介。現地でも簡単に製造できるように、陶器ではなくプラスチック製にしたことなどに触れ、「国によって経済状況や環境は異なる。その国のことを理解し、敬意を持って対応することが大切」と述べた。尾崎奏葉さん（17）は「衛生環境の改善が子どもの未来につながっていることが分かった。将来はSDGsの達成につながるような仕事を運びたい」と話していた。生徒は今後、各企業の取り組みを紹介するポスターを作製する。ポスターは訪問した企業のウェブサイトにも掲載される予定。